

事業シート

【平成20年度】

課コード	002215	作成日	平成21年8月28日
所属名	動物園	作成者	渥美雄一

事業名		動物園施設維持管理事業		戦略性
事業概要				
目的	(対象、意図、求められる結果)	開始年度	終了予定年度	
園内を常に良好な環境に保ち、入園者に安全快適に利用してもらう。		昭和 58		
		年		年
活動内容【イン・プット】				
<p>入園者が安全で安心して快適に利用していただくために、園路やトイレ(7カ所)の清掃を毎日、受託業者が行う(契約金額 8,935,500円)。樹木や芝生などの植栽地の維持管理を定期的に受託業者が行う(契約金額 10,170,300円)。園内で使用する上下水道施設の保守点検業務を受託業者が行う(契約金額 570,150円)。また、浄化施設において、動物舎などからの汚水雑排水の処理やその水質検査、中水供給、動物の糞の堆肥化(フラワーパークで再利用)を行う(契約金額 29,326,500円)。130種類450点の動物の管理は飼育職員21人、獣医師4人で対応し、獣舎の清掃、えさやり、動物の観察などを行いながら、健康維持に気をつけて飼育している。動物学習として、市内の小学生から大学生までを対象に、動物を通して、命の大切さについて授業を行っている。また、県西部地区(掛川市以西)の小学生から大学生までを対象に、飼育実習を行っている。希少動物については、他園と情報交換を行いながら、その種の保存活動や繁殖研究を行っている。</p>				
wegugi	実施根拠(法令、条例等)	新市建設計画事業	ワークシヨップ提案事業	
<input type="checkbox"/> 義務的的事业 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的的事业	都市公園法、浜松市都市公園条例	×	×	
事業運営方法				
<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等				

平成20年度のコスト【イン・プット】					
事業費(千円)		財源(千円)		職員人件費(千円)	174,400
計	131,367	計	131,367	正規職員(人工)	21.8
人件費	0	国庫支出金	0	非常勤職員(人工)	0.0
扶助費	0	県支出金	0	再任用職員(人工)	0.0
物件費	128,657	市債	0	年間経費(千円)	305,767
維持補修費	500	受益者負担金	0	受益者負担率(%)	0.0
補助費等	2,210	その他	86,003		
その他	0	一般財源	45,364		

定量評価							
指標1【アウト・プット】		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
入園者数	目標	人	420,000	425,000	430,000	440,000	450,000
	実績	人	400,408	387,432	361,147		
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	316,018	308,247	305,767	311,017	311,017

指標2		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%					
	実績	%					
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円					

定性評価	
事業目的の達成状況	
平成20年度事業内容	
<p>入園者数 361,147人 教育活動実施回数 252回 繁殖動物 クロキツネザル1頭セイラン1羽他17点 研究発表 ゴリラの死亡報告について他3回 【アウト・プット】 教育活動では、動物に備わった生態、行動、生理、生息環境などの情報を、小中学生に感動と理解を持って伝え、自然の大切さや守るべきものを共感できるように動物学習を行ったが、多くの児童生徒に関心を得る中で、特に庄内中学校の生徒は「動物園の役割」についての学習成果を「県西部児童生徒社会科研究発表会」に発表するなど、大きな教育効果があった。その活動内容は動物学習会(25回492人)、動物園での飼育体験(31回76人)、ウサギとのふれあい活動(109回12,213人)、遠足イベント((カンガルー・ペンギンの餌やり、ゾウ・キリンとの記念写真、ウサギのふれあい)87回5,124人)であった。【アウト・カム】</p>	

内部評価の結果

(1)必要性		(理由)
C 継続	A 終了 B 廃止 C 継続	市民の動物等自然保護に対する意識や動物愛護精神の向上に資するため、日頃より直接見たり、触れたりすることが少ない動物を通して生命の温かみや研究機関としての動物園での教育活動は非常に重要であることから、事業の継続が必要である。
(2)実施主体		(理由)
C 市	A 民間(民営化) B 国、県、広域 C 市	動物園の主要な使命である動物教育、動物研究、希少動物の繁殖などの業務は収益性が無く、市が実施することが妥当である。近辺には、類似の業務を行う民間団体は存在しない。
(3)選択と集中		(理由)
B 現状	A 拡大(予算) B 現状(予算) C 縮小(予算)	動物飼料費などの需用費が減少する中で、近辺の農家から規格外品の農作物を貰い受けて補填した。
(4)改善		(理由)
A 改善あり	<input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 一部廃止 <input type="checkbox"/> 受益者負担 <input type="checkbox"/> 一部民営化 <input checked="" type="checkbox"/> 協働 <input type="checkbox"/> 非常勤化 <input type="checkbox"/> その他改善 <input type="checkbox"/> 現状	動物飼育業務の内、調理棟業務について、動物の食の安全性を確保しながら平成19年度に外部委託し、職員2名と非常勤職員1名分の人件費を削減した。また、教育活動などにおいて動物園ボランティアと協働でサービスの質の向上に努めている。
今後の方向性		
C 改善	A 拡大 B 現状 C 改善 D 廃止	動物の展示方法は、開園当時の個体展示から行動展示へと変化している。また、動物園は動物の姿、形、動きなどの外観をみせる憩いの場だけでなく、地域の社会教育機関としての機能を果たすことも求められていることから、動物園長期総合整備計画に基づいて、教育施設(教育会館)などの整備を進めていく。
今後の方向性を実現するための具体的取り組み(何をいつまでにどうするか)		
<p>施設のUD化:入園者が利用しやすい施設として休憩施設を平成24年度に整備する(動物園長期整備計画)。</p> <p>動物展示:動物の生き生きとした表情を見せる行動展示を採り入れた施設として、平成23年度にアフリカゾーンを整備する(動物園長期整備計画)。</p> <p>保護繁殖:展示飼育動物は、希少な動物が多いことから、保護活動や繁殖に力をそそぐ(現在、130種類450点の動物を飼育し、そのうち希少動物は53種類202点)。</p> <p>学習活動:小学生から大学生までを対象に「動物学習」や「飼育体験学習」などの教育内容を充実し、学びの場を平成26年度までに整備する(動物園長期整備計画)。</p> <p>動物園の役割には、憩いの場の提供以外に、調査研究・自然保護・教育がある。特に、教育事業では、命の大切さや絆の尊さを伝え、豊かな社会性を養うことが重要であると考えており、今後は、これらの文化的な活動の必要性を広報やHPで発信し、広く市民の理解を得られるよう努める。</p>		
廃止できない理由(廃止した場合に想定される影響)		
<p>動物園は「憩いの場」「社会教育」「種の保存」「調査・研究」と4つの基本的な役割がある。その中でも現在、希少種の保存や繁殖、自然の大切さや環境保全に寄与する教育機関としての機能が求められている。また、展示動物の中には国際間の協力として国内では唯一浜松市動物園でのみ飼育している「ゴールデンライオンタマリン」がいる。その他、希少動物を数多く飼育し、国内の動物園、水族館と協力して希少種の保存と繁殖に努めている。浜松市動物園は日本動物園水族館協会の一員として国内はもとより国際的にも協力体制を構築している。また、動物園は、館山寺地区の地域経済の活性化にも大きく貢献している。このようなことから、動物園は廃止できない。</p>		

政策・事業外部評価結果報告シート

事業名	動物園施設維持管理事業			
所管課名	動物園			
内部評価 (外部評価前)	方向性	理由		
	改善	動物の展示方法は、開園当時の個体展示から行動展示へと変化している。また、動物園は動物の姿、形、動きなどの外観をみせる憩いの場だけでなく、地域の社会教育機関としての機能を果たすことも求められていることから、動物園長期総合整備計画に基づいて、教育施設(教育会館)などの整備を進めていく。		
外部評価	【採点結果】 4点満点			
	①事業の目的や内容が理解できたか	②事業の達成状況や効果が理解できたか	③内部評価の結果とその理由は妥当か	総合評価(平均)
	3. 3	2. 5	2. 5	2. 8
	【主な意見】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズの把握と積極的な意見集約を行い、調査分析に基づいたソフト事業の充実を図るべきである。 ・競合・同種施設の分析も必要で、それらを総合的に勘案しながら事業を推進していくべきである。 ・市が一般財源を持ち出してまで動物園を運営する必要性を、市民に説明する必要がある。 			
今後の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度に実施した入園者アンケートの調査結果をふまえ、入園者のニーズに沿ったハード及びソフト事業を展開していきます。 ・同様のアンケート調査で、本園と競合する日本平動物園と豊橋動植物園との比較において、本園は、動物の種類や料金の点で高い評価を得ていますが、動物の展示方法や休憩施設、食堂などの便益施設について評価点が低く、今後は、これらの施設を再整備する長期総合整備事業の中で、競合同種の施設の効率的な運営や維持管理を参考としながら、総合的に推進していきます。 ・動物園の役割には、憩いの場の提供以外に、調査研究・自然保護・教育があります。特に、教育事業では、命の大切さや絆の尊さを伝え、豊かな社会性を養うことが重要であると考えており、今後は、これらの文化的な活動の必要性を広報やHPで発信し、広く市民の理解を得られるよう努めます。 			